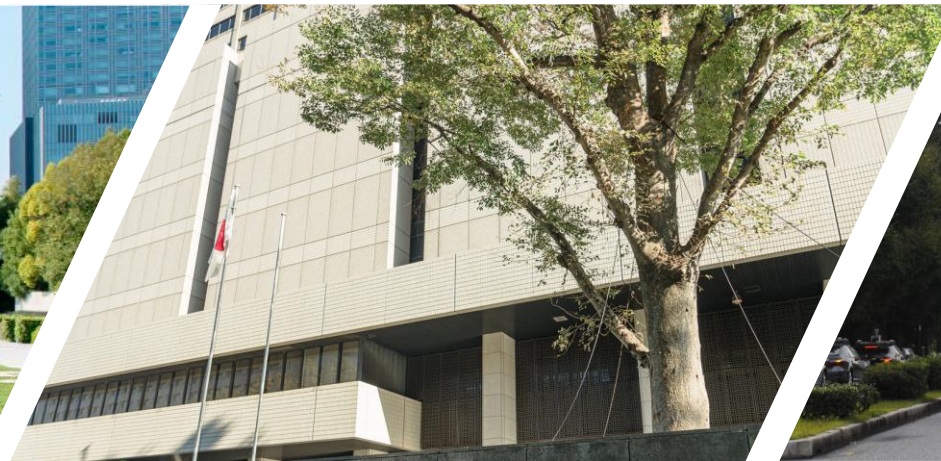




日本国憲法⑧

「経済的自由権」





講義の内容と到達目標

講義の内容

- 本講義では経済的自由権を取り扱います。まずは経済的自由権とは何か、精神的自由権との違いは何かを学んだうえで、経済的自由権の保障はどの程度まで及ぶのかという点について、具体的な権利を見ながら検討を行います。

到達目標

- 精神的自由権との違いを理解することができる。
- 経済的自由権を構成する人権について、それぞれ理解することができる。

今回の講義の 目次

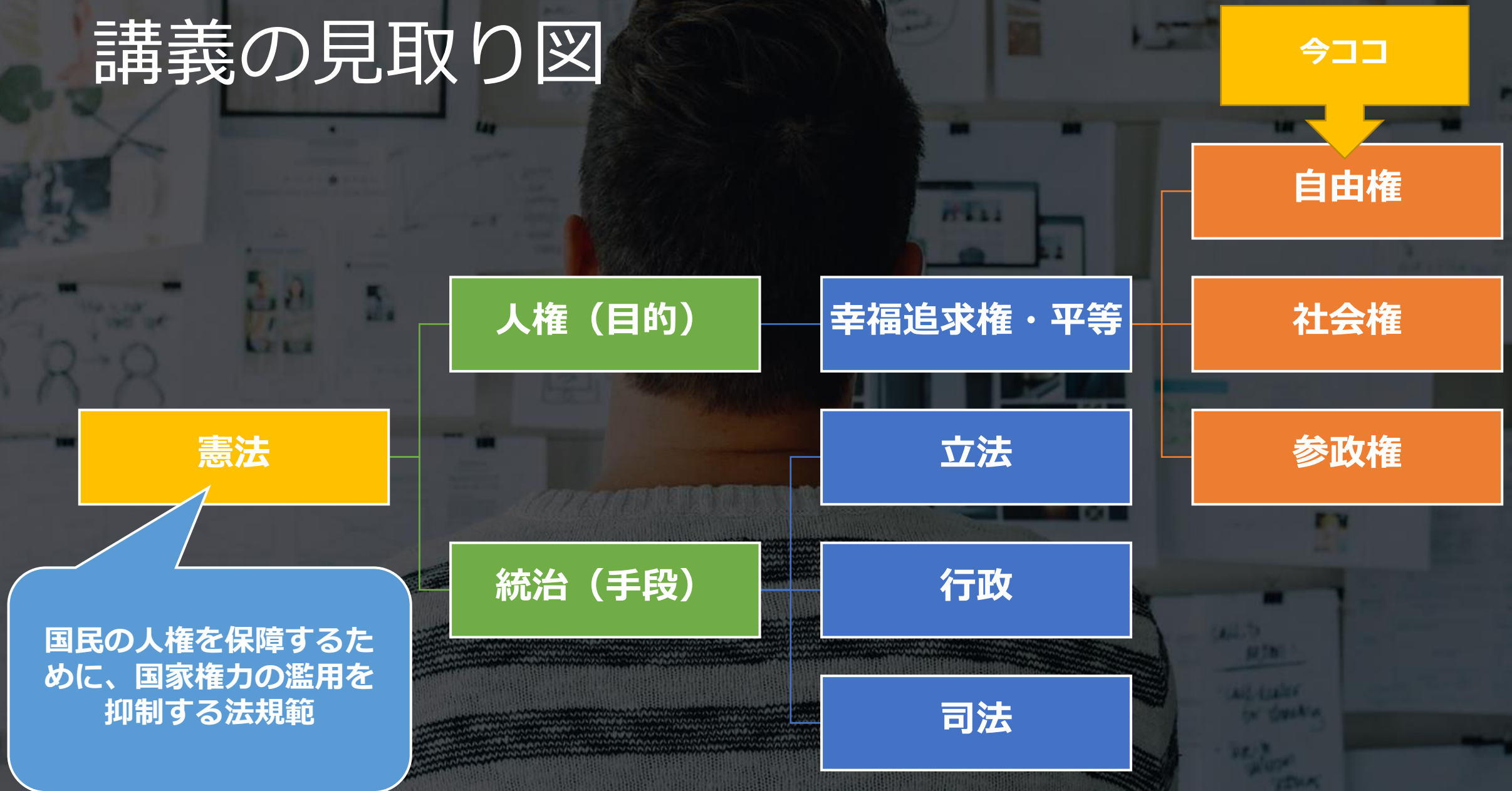
1. 精神的自由と経済的自由の違いとは？

2. 財産権とは何か？

3. 職業選択の自由とは何か？

4. 居住移転の自由とは何か？

講義の見取り図



講義の見取り図





今回の講義の問い①

1. 精神的自由と経済的自由の違い？

これまで学んできた精神的自由権
との違いを踏まえて、**経済的な
自由権とは何か**を考えてみま
しょう。



今回の講義の問い②

2. 財産権とは何か？

資本主義社会を支える
根本的な権利である財産
権を学びましょう。



今回の講義の問い②

3. 職業選択の自由とは何か？

職業を選ぶことが自由であるということが持つ意味を
具体的に考えてみましょう。

A decorative background on the left side of the slide featuring several 3D question marks. One large orange question mark is in the foreground, while several smaller black question marks are scattered in the background.

今回の講義の問い②

4. 居住移転の自由とは？

移動や行動の規制をかけることがどこまで許されるのか考えましょう。

1. 精神的自由と経済的自由の違い？

「経済的自由権」とは、
どのような権利
でしょうか？



(1) 精神的自由権との違い



違い

- 精神的自由：21条を中心とする**精神活動**とそれにも**とづく外部行為**に対する保障
- 経済的自由：財産権をはじめとする**自由な経済活動**の保障

※二重の基準



(2) 経済的自由の内容

内容

- ・ 財産権 (29条)
- ・ 職業選択の自由 (22条1項)
- ・ 居住移転の自由 (22条1項)



2. 財産権とは？



財産権とは**どのような**
権利をいうのでしょうか？

(1) 財産権とは何か

財産権とは

- 一切の財産的価値を保有する権利
※資本主義と社会主義
- 所有権、物権、債権のほか、著作権、特許権、商標権、意匠権などの無体財産権を含む
- 特別法上の権利（鉱業、漁業権）



(2) 財産権保障と はどのような意味か

財産権の具体的な姿



「公共の福祉」に適合するように、
法律で定められた内容のものが
「財産権」

⇒国会が制定したいろいろな**法律で規定**
されている財産的な権利の全体が
具体的な姿



(3) 私有財産制度の保障

憲法条文の矛盾

- ◆第1項 財産権は、これを侵してはならない。
 - ◆第2項 財産権の内容は、公共の福祉に適合するやうに、法律でこれを定める。
 - ◆第3項 私有財産は、正当な補償の下に、これを公共のために用ひることができる。
- ⇒どうするか？



（３）私有財産制度の保障

2つの意味内容

① 私有財産制度という制度を保障する側面（客観）

② 国民の個々の財産権を保障する側面（主観）

⇒森林法判決（最大判昭和62年4月22日）



(3) 私有財産制度の保障



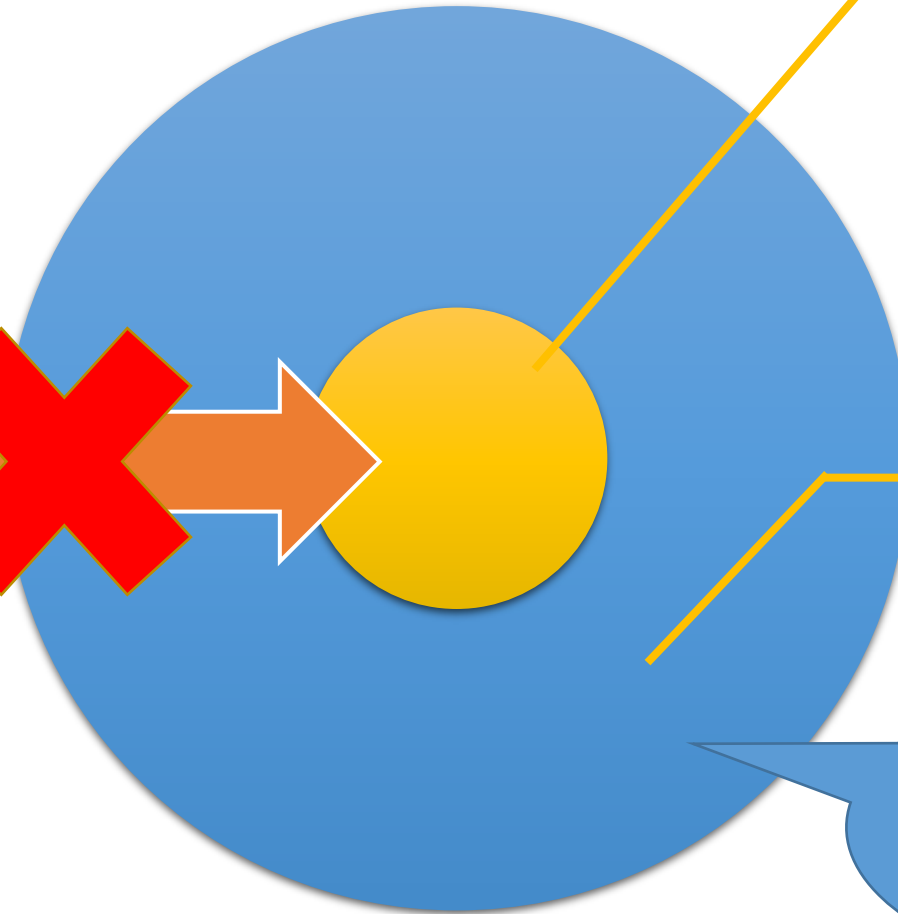
① 私有財産制度

私有財産制度
を変えなけれ
ば法律で改変
可能

資本主義体制

憲法が保障

法律によって、
社会主義国家・
共産主義国家体
制に変更はダメ



(4) 財産権の制約

制約の例

- ・ 感染症法、食品衛生、消防法、宅地造成等規制法など
- ・ その他、災害の未然防止のための制限、公害防止、自然環境保全のための規制、文化財の保護、都市計画上の制限など



（５）財産権規制に対する補償

損失補償

「**適法な公権力の行使**により、財産権が侵害され、特別の犠牲が生じた者に対して、公平の見地から全体の負担において**金銭で填補すること**」

※「賠償」との違い

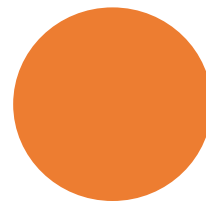


(5) 財産権規制 に対する補償

どのような場合に補償が必要か

「**公共のために用ひること**」と「**特別の犠牲**」が必要

⇒これらが満たされる場合には「**正当な補償**」が必要となる



(5) 財産権規制に対する補償

「正当な補償」とは

- ・ **完全補償**：①客観的な経済価値＋②付带的損失（①だけの場合もある）
- ・ **相当補償**：公共目的の性質、その制限の程度等を考慮して算出する合理的な相当額

⇒最近では**生活権補償**の議論も



3. 職業選択の自由とは？

職業選択の自由とは**どのような権利**をいうのでしょうか？





職業とは

(1) 職業とは何か

「**人が自己の生計を維持するためにする継続的活動**」 (薬局距離
制限事件判決・最大判昭和50・4・30民集29巻4号572頁)

⇒経済的・社会的性質だけでなく、**個人の人格的发展を全うする
場としての性格**



(2)
営業の自由（職
業遂行の自由）
を含むか

営業の自由

判例上は22条1項で保障されていると考えられる

⇒ **選択 + 遂行 = 職業の自由**

(3) 職業選択の自由の保障範囲

保障範囲

- ① 各個人が、政府の規制を原則として受けずに、**自分の就職・転職・退職を決定する自由**
- ② 各個人が、政府の規制を原則として受けずに、**選択した職業を遂行する自由**
- ③ 個人や**団体**が、政府の規制を原則として受けずに、**選択した職業を遂行する自由**

(4) 政府による規制

消極規制

他者の自由権侵害を防ぐための規制（**社会生活の安全、秩序維持など**）

i 禁止＝反社会性の極めて強い行為

例：売春、有料職業紹介事業

ii 資格制限（個人免許） 例：医師、薬剤師、弁護士、調理師、教員等の免許

iii 営業に関する免許、許可、登録、届出





(4) 政府による規制

積極規制

他者の社会権侵害を防ぐための規制（**経済的弱者の保護等の社会政策、経済政策**）

- i 国家の独占事業 例：郵便
- ii 特許 公益事業 例：電力会社
- iii 独占禁止法に基づく規制
- iv その他、社会的経済的弱者保護を目的とした規制



4. 居住移転の自由とは？

居住移転の自由とは
どのような権利
をいうのでしょうか？

(1) 居住移転の自由とは何か

内容

- ① 人とモノの自由な移動
- ② 意思伝達・集会結社・集団移動
- ③ 人格形成
- ④ 移動の自由





(2) 移動の自由の制限

制限対象

- ・ **在監者：懲役刑、禁固刑を受けた者が刑務所に拘禁されること**
- ・ **自衛官、警察など**
- ・ **感染対策など**

まとめ



1. 精神的自由と経済的自由の違いとは？

- 内心の自由とその外部行為の保障／経済活動の保障

2. 財産権とは何か？

- 個人の財産権・私有財産制度の保障、財産権の限界、損失補償

3. 職業選択の自由とは何か？

- 職業＋遂行（営業）、積極規制と消極規制

4. 居住移転の自由とは何か？

- 移動の制限